

No Music, No Hirado-Life (平戸の暮らしに 音楽は欠かせない!)



くろだなるひこ
平戸市長(長崎県) 黒田成彦



平戸市位置図

地元の中学校では、初めての校内文化祭で3人の先輩によるフォークソングのギター弾き語りを聞いた時に、カルチャー

あつて小学校卒業時には楽譜を見るとメロディーが聞こえてくる程度に鍵盤楽器にも向かうことができていました。

常に音楽が身近にあった生活

長崎県平戸市は、九州の西北端に位置し、平戸島を中心に大小約40の島々で構成されており、平成17年10月に平成の大合併により、平戸市、生月町、田平町、大島村が対等合併し、現在約2万8000人が住んでいます。平戸島と生月島は架橋でつながっていますが、山が海岸線に迫っており、平野部が少なく集落が点在する過疎自治体です。

私は昭和35年に漁業が盛んな生月町に生まれ、実家は燃料の卸売り販売をする家庭で、父は地元役場の職員でした。教育熱心な家族に育てられ、田舎ではお決まりの習い事として習字やそろばんの他に、幼稚園の頃にピアノ、小学生の時にはオルガン教室に通わされました。そうした環境も

ショックと感動を覚え、その後、いとこからもらったギターに没頭し勉強そっちのけで、独学で弾けるようになりました。その後、吉田拓郎やかぐや姫など日本のフォークからニューミュージックを演奏したり、高校では、イーグルス、ドゥービー・ブラザーズ、ステイシーリー・ダンなどアメリカンロックに魅了されました。

大学生生活でも、ジャズ、フュージョン、AORなど幅広く国内外のミュージシャンの作品に触れ、仲間とバンドを組んだり、また世代をさかのぼり、改めてビートルズやエリック・クラプトンなどの懐かしいロックサウンドも含め演奏し鑑賞するなど、就職までの私の生活に音楽はなくてはならない相棒でした。

代議士秘書として働くようになってからは、演奏を发表する機会などには恵まれませんでしたが、メモリー付きシンセサイザーとMTR機器を購入し、多重録音による自作自演のカセットテープを編集して、遠距離でなかなか会えない当時婚約中だった妻に贈ったりもしました。

政治家になっても ギター片手に地域活動

平成14年に長崎県議会議員に当選し、平成21年には現在の平戸市長に就任しました。が、公職に就いてからは、地域のお祭りなどにお誘いを受け、ステージで演奏をする

機会に恵まれました。

例えば、県議会議員時代にはベンチャーズのコピーバンドに参加したり、市長になつてからは市内各地の夏祭りのステージや、毎年の敬老会の余興でギターの弾き語りで演歌などを披露する機会があり、今でもその活動が楽しみになっています。

その他にも、地元高校の文化祭にサブライズで登場することもあり、そこではモノマネと替え歌で生徒からも喝采を受けました。またプロの演歌歌手・水田竜子さんが『平戸雨情』をリリースし、地元公演としてイベントで歌を披露した際は、ギター伴奏を務めさせていただきました。

特に市長に初当選した際に私の出身高校



平戸くんち城下秋まつりの総踊りパレードで田助ハイヤ節の三味線を演奏



さかな芸術人ハットリさんのコロガ

豊富な種類の農林水産物です。そうしたさまざまな価値を広く宣伝するためのイベントや営業活動にも音楽の演出は欠かせない要素です。東京有楽町の交通会館では、アンテナショップ「有楽町ひらど商館」を設置していますが、その式典には私も出席してトップセールスを行うのですが、コロナ禍明けのリニューアルオープン式の式典では、魚の絵と名前を替え歌で披露するさかな芸術人ハットリさんと一緒に

の同級生の皆さんからプレゼントしてもらった三味線にチャレンジし、地元で伝わる長崎県の無形民俗文化財の『田助ハイヤ節』の伴奏曲を弾けるようになりました。それが高じて、平戸市が民間交流をしている台湾の台南市主催による南瀛国際民族芸術フェスティバルに出場することとなり、約1万人が観客として集まった屋外のライブ会場では田助ハイヤ節を披露させていただいたことは、今でも忘れられない思い出です。

平戸市の「歴史」「恵み」「祈り」には不可欠の「音楽」

本市の自慢は、雄大な自然景観と古くから伝わる歴史的遺産、そしておいしくて豊



灯台マルシェでは白亜の灯台を背にギターを演奏しながらの熱唱

ステージに登場し、エレキギターで伴奏しました。

また日本財団が後援する灯台プロジェクトの中で、平戸市生月町の島の北端にある大バエ灯台では「灯台マルシェ」が平成5年の3月と11月に開催されましたが、この時も雄大な自然を背景にギターの弾き語りをさせていただきました。

歴史的イベントとしては、2013年にはウィリアム・アダムズ(三浦按針)が本市に英国商館を設置して400周年にあたることから、県内外のビートルズのコピーバンドに集まってもらい、コンサートを開催しましたが、その折に私も出演し数曲披露する機会に恵まれました。

本誌の「マイ・プライベート・タイム」と

いう企画に免じて、こうして私の音楽遍歴をつづってまいりましたが、まるで市長がギターを片手に遊んでいるようにも見えます。しかし、それは平戸市民が音楽に対する理解が深く、それぞれの生活にも浸透していることの証左でもあり、私以外にも市内には多くの音楽家や演奏者が存在し、地域の中で多種多様なイベントで活躍しておられます。その舞台は、教会堂や寺院の境内や本堂など、また月1回の図書館でのライブや最近では古民家を改修したカフェなどでも気軽にコンサートを楽しめる空間を演出しておられ、身近に文化が鑑賞できる機会が多く与えられています。

そんな平戸市に多くの皆さまのお越しをお待ちしております。